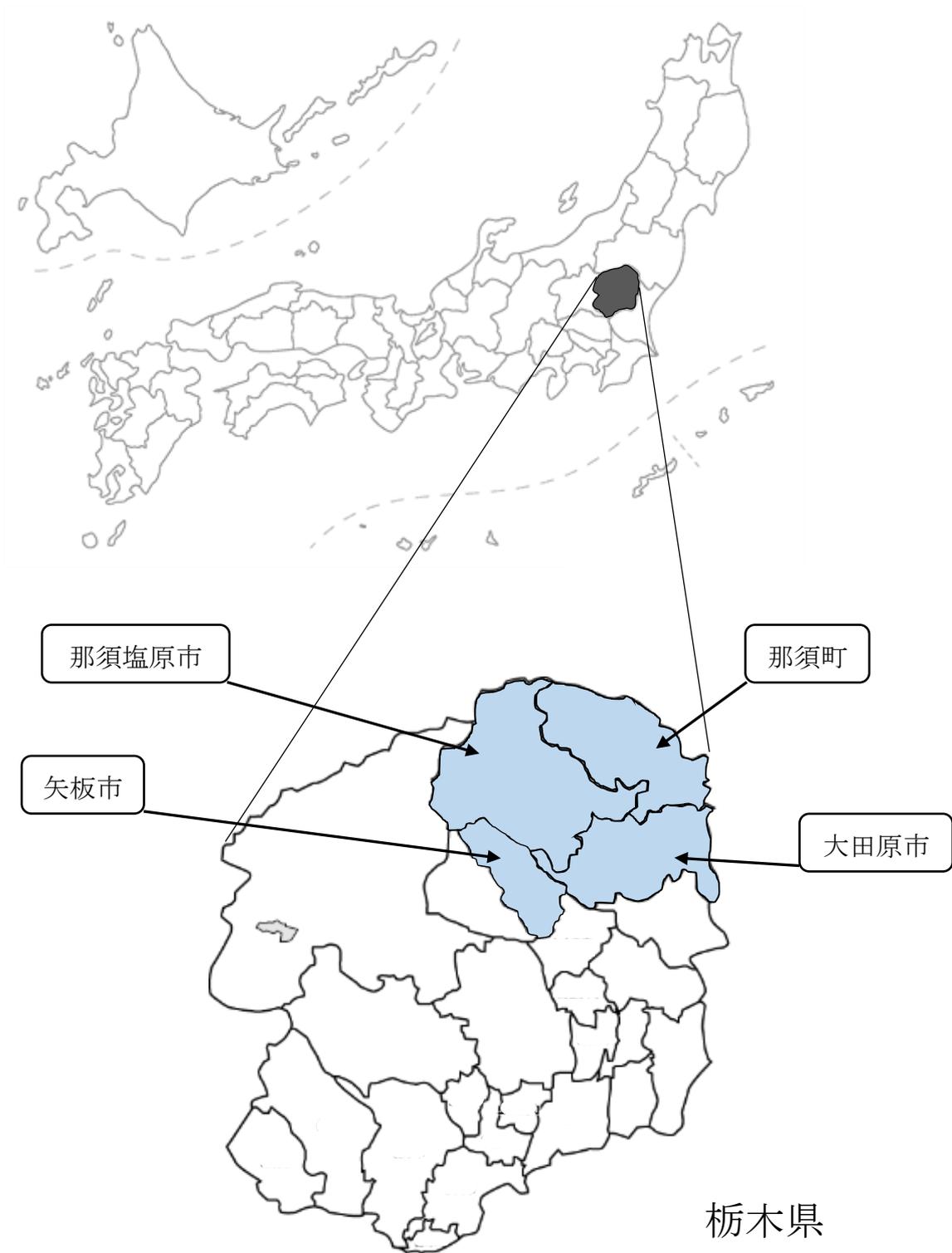


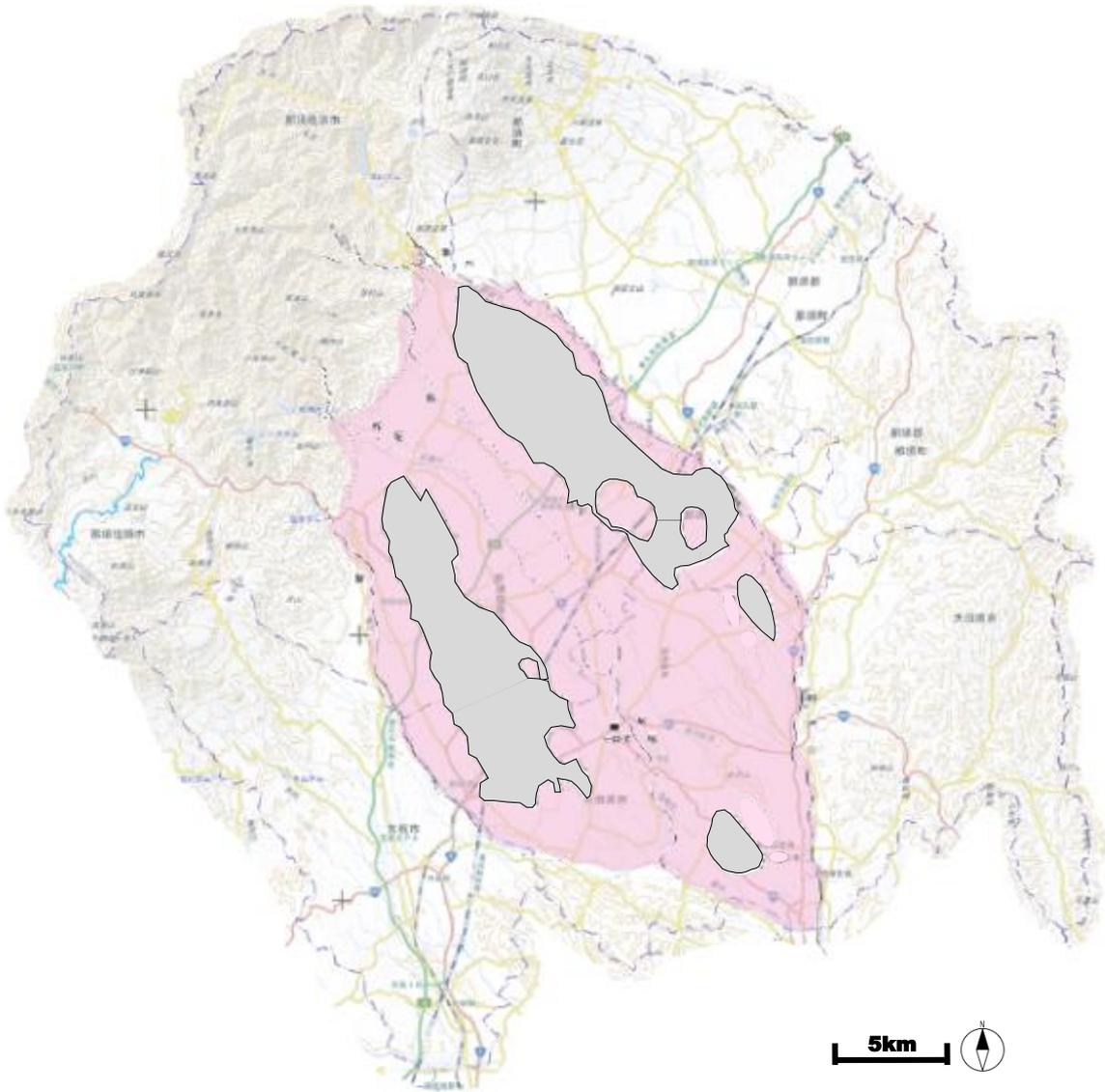
(様式 1-1)

① 申請者	◎那須塩原市、矢板市 大田原市、那須町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
明治貴族が描いた未来 ～ <sup>なすの</sup> 那須野 <sup>はら</sup> が <sup>ろまんたん</sup> 原開拓浪漫譚～			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>わずか140年前まで人の住めない荒野が広がっていた日本最大の扇状地「那須野が原」。</p> <p>明治政府の中枢にあった貴族階級は、この地に私財を投じ大規模農場の経営に乗り出します。</p> <p>近代国家建設の情熱と西欧貴族への憧れを胸に荒野の開拓に挑んだ貴族たち。その遺志は長い闘いを経て、那須連山を背景に広がる<sup>ほうじょう</sup>豊饒の大地に結実しました。</p> <p>ここは、知られざる近代化遺産の宝庫。那須野が原に今も残る華族農場の別荘を訪ねると、近代日本黎明期の熱気と、それを牽引した明治貴族たちの足跡を垣間見ることができます。</p>			
			
那須野が原の大パノラマの中に佇む <sup>まつかた</sup> 松方別邸		<small>やまがたありとも</small> 山縣有朋記念館に展示された大礼服   <small>おおやまいむお</small> 大山巖が使用した馬車	
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	那須塩原市教育委員会事務局教育部生涯学習課文化振興係 小池 久史		
電話	(0287) 37-5419	FAX	(0287) 37-5479
E-mail	shougai@city.nasushiobara.lg.jp		
住所	栃木県那須塩原市あたご町2番3号		

市町村の位置図(地図等)



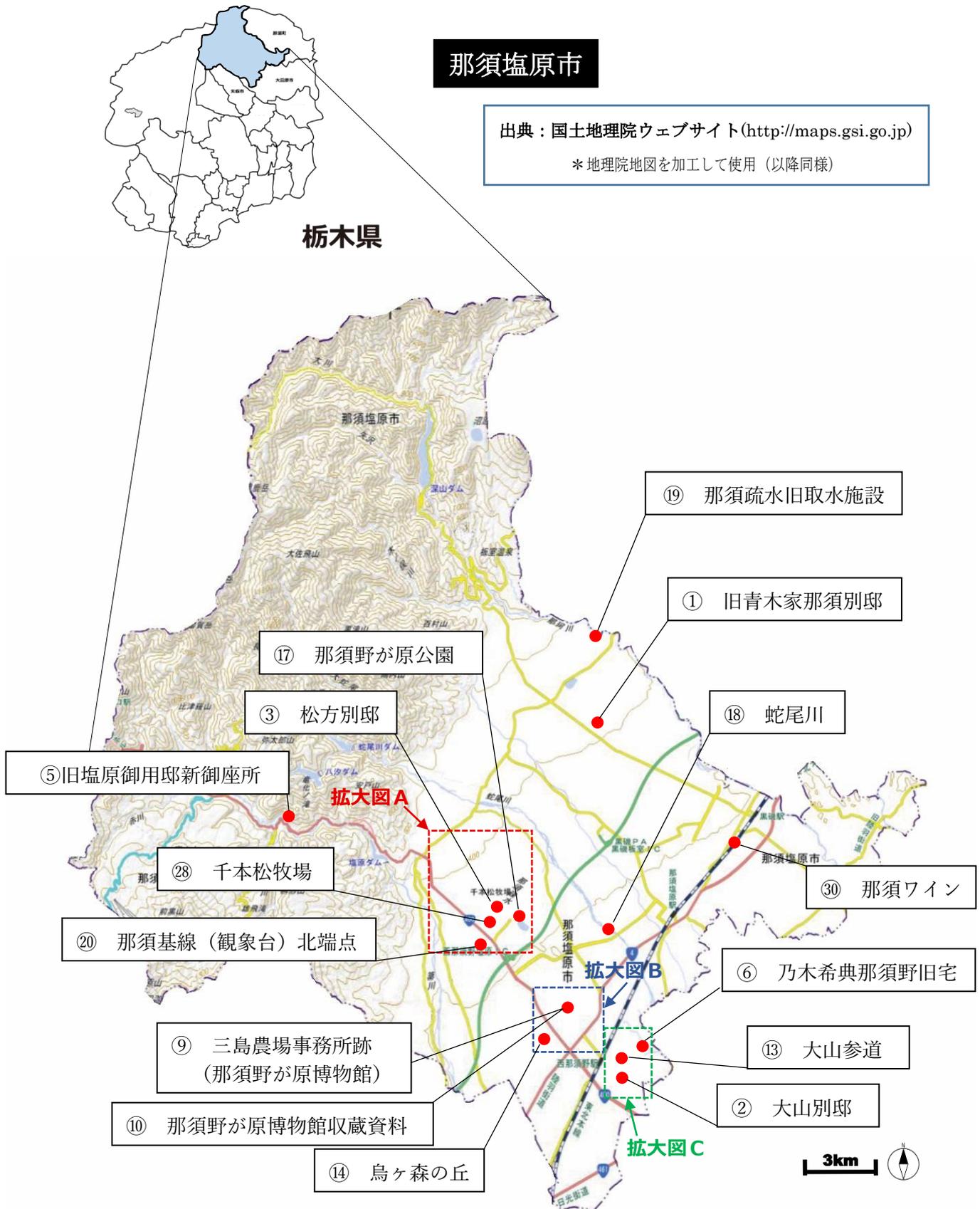
那須野が原位置図



凡例

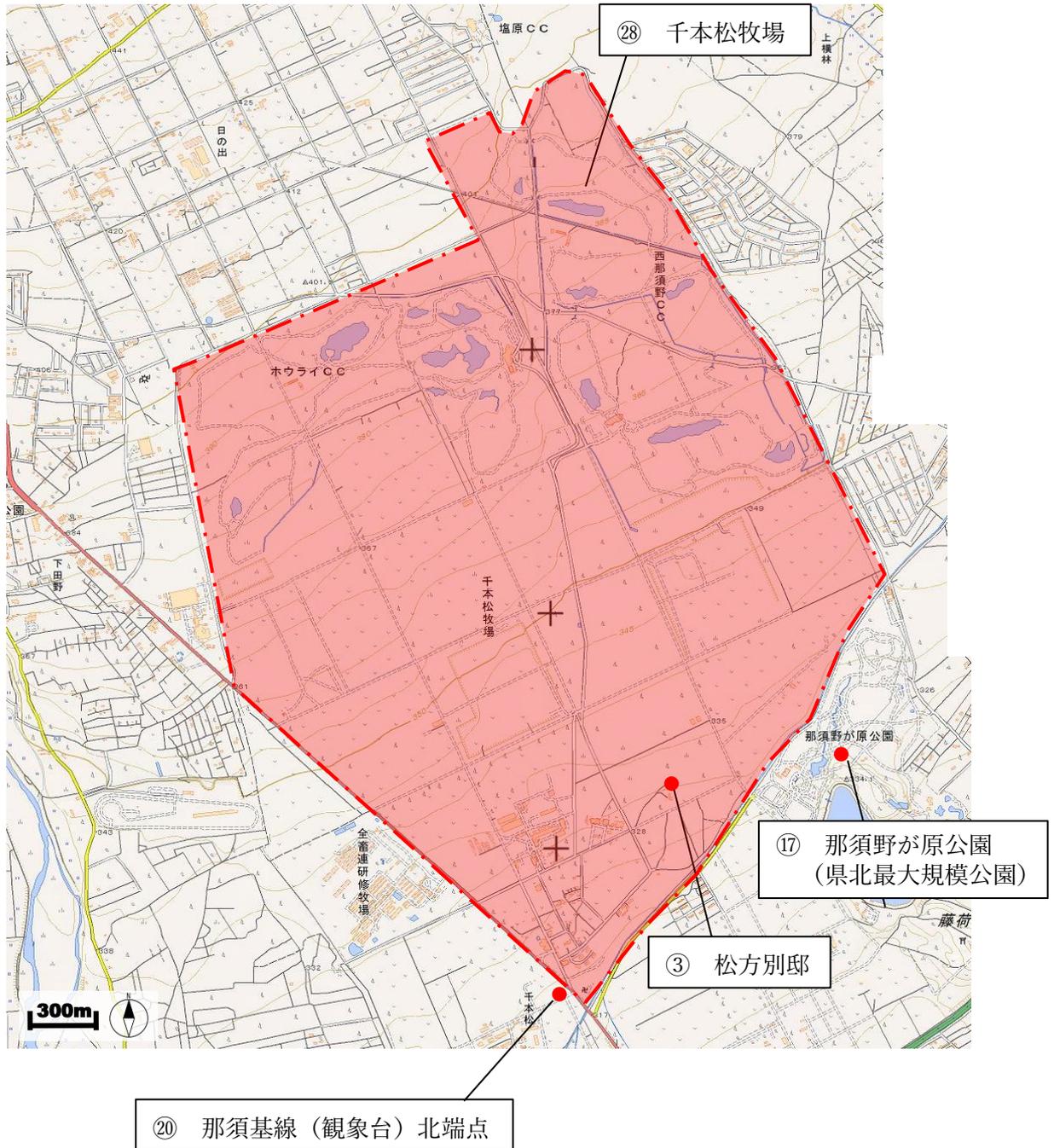
- |   |                   |           |
|---|-------------------|-----------|
|  | 那須野が原範囲 (扇状地)     | 面積 4 万 ha |
|  | 明治初年における扇状地内の未開拓地 | 面積 1 万 ha |

構成文化財の位置 (地図等)



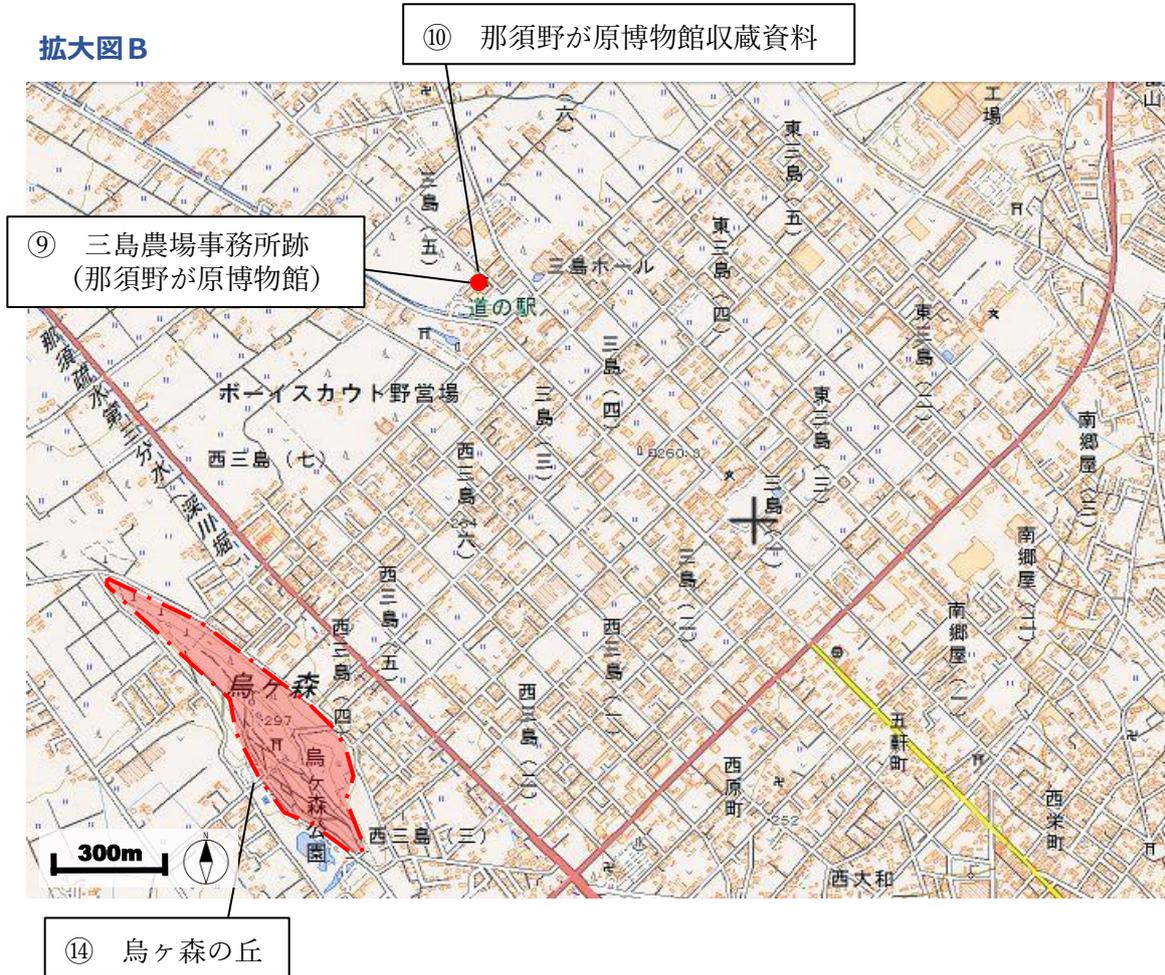
構成文化財の位置 (地図等)

拡大図 A



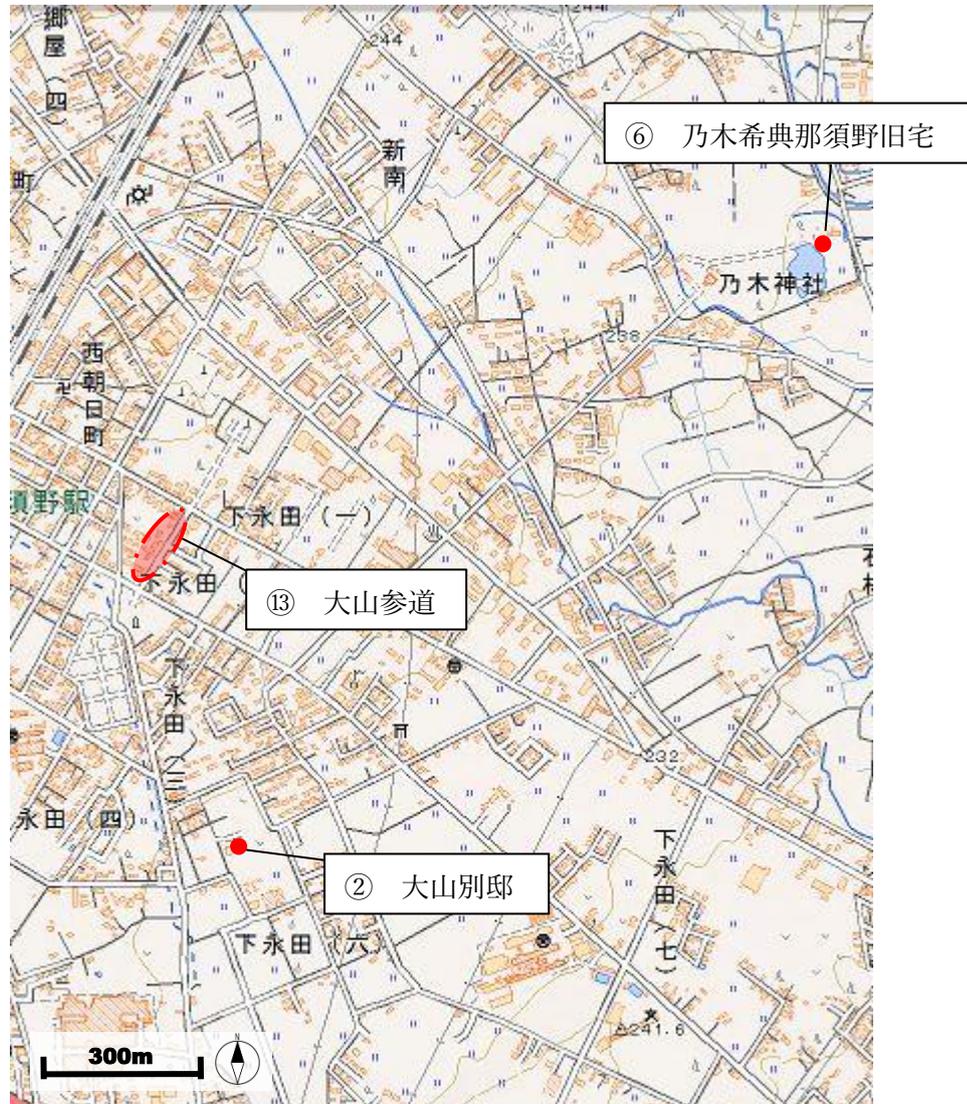
構成文化財の位置 (地図等)

拡大図 B



構成文化財の位置 (地図等)

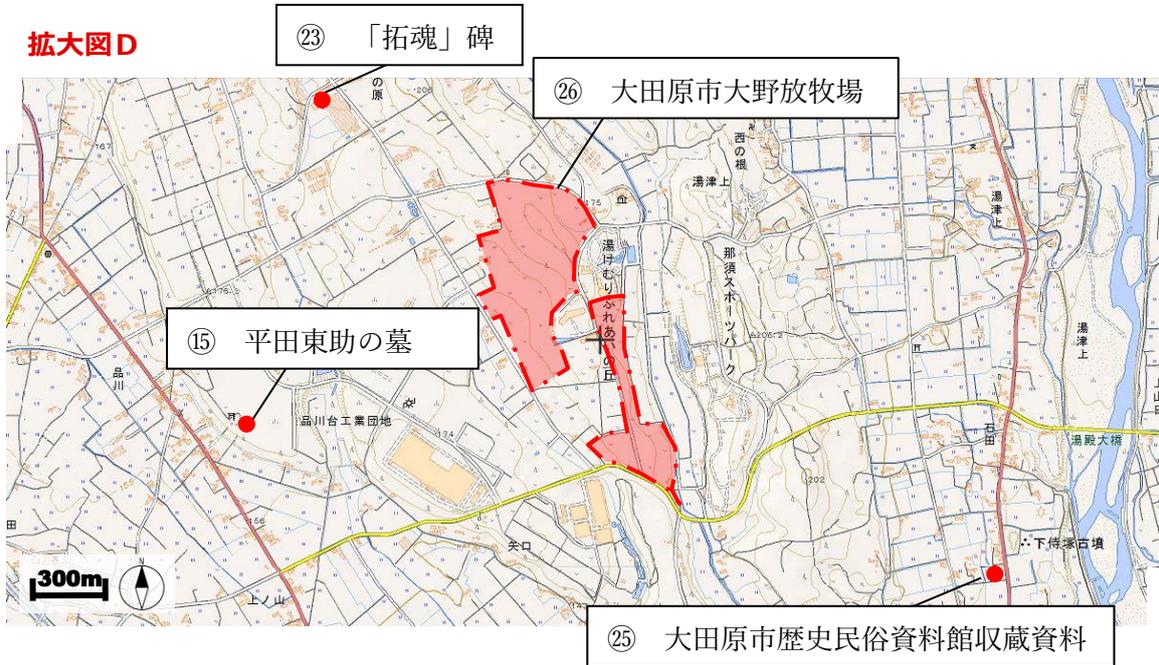
拡大図 C



構成文化財の位置(地図等)



構成文化財の位置 (地図等)

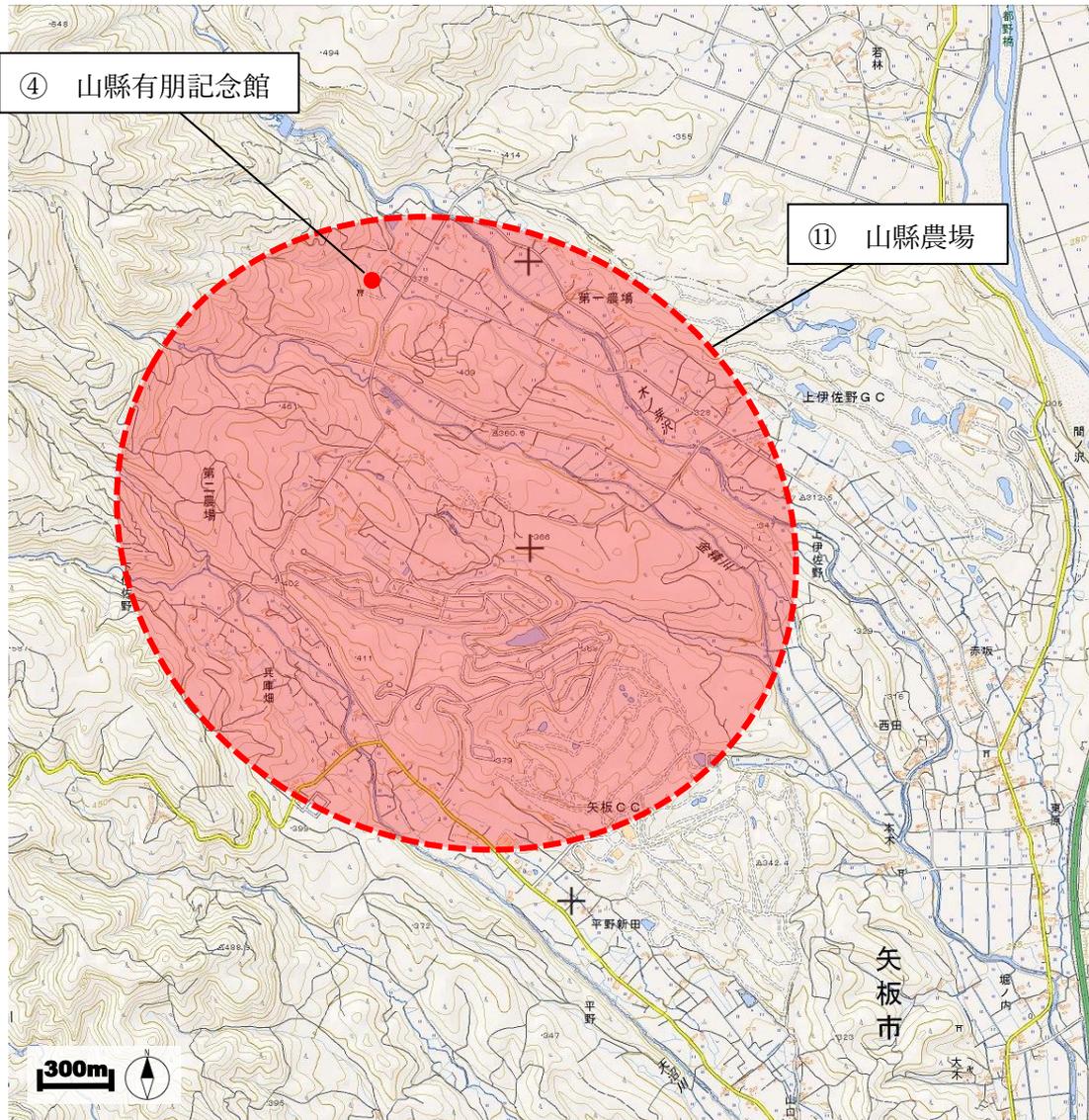


構成文化財の位置 (地図等)



構成文化財の位置 (地図等)

拡大図 E



構成文化財の位置(地図等)



構成文化財の位置 (地図等)

拡大図 F



## ストーリー

## 【那須野が原に残る明治の余韻】

長い杉並木を抜けると視界は一気に開け、青空の下にその建物は全貌を現します。中央に物見台を戴くホール棟、左右に羽を広げたように延びる棟にテラスを配した白亜の洋館は、近づくると、壁一面が鷺型の白いスレートで飾られ、屋根に張り出した採光窓が、ユニークな凹凸を描き出しています。まるで映画の一場面のように、いまにも日傘を手に貴婦人が姿を現しそうなその建物は、明治政府で外務大臣を務めた青木周蔵子爵が<sup>あおきしゅうざう</sup>残した別荘です。このほかにも、様々な趣向を凝らし広大な敷地を有する別荘が周囲の喧騒とは無縁に点在する場所が、関東地方の北端に存在します。



青木農場跡に建つ別荘

栃木県北部に位置する日本最大規模の扇状地「那須野が原」には、明治から昭和にかけて大規模農場がひしめき合った時代がありました。別荘群は、当時の面影をいまに伝える貴重な生き証人です。これらの「大規模農場と別荘」を作り上げたのは、明治維新を牽引した元勳や明治政府の要職を歴任した貴族たち…いわゆる「華族」でした。そして、これら華族農場の成立の背景には、明治政府が推し進めた政策が大きく関わっていました。



山縣農場内に建つ別荘

## 【水の無い大地を拓く～華族農場の成立】

首都東京からわずか150kmに位置するこの地は、明治初年まで人の住めない不毛の原野でした。那須野が原の広さは約4万ha。中央部は土砂や火山岩が厚く堆積し、真ん中を縦断する蛇尾川・熊川は、水が地下に浸透してしまうため約10kmにわたり水の無い川となります。いまでも場所によっては車で横断することが可能な蛇尾川の河床に降り立つと、ゴロゴロと足元に転がる石や流木が、「手にして掬う水も無し」と詠われた時代の風景を容易に想像させます。



水の無い蛇尾川

しかし、この「極めて平坦な大地」は西洋列強に対抗し殖産興業政策を掲げた政府に開拓地として注目され、その実現に向けて、華族階級が出資する農場が、明治13年から20年代にかけ、次々と開設されました。



明治17年から醸造されているワイン

これら華族農場では、大々的に西洋式大規模農法が取り入れられ、開墾と牧畜、植林を中心とする様々な試みが行われました。ブドウ栽培の着手も早く、明治17年には既にワインの醸造が行われ、農場主たちの食卓を彩りました。それは、あたかも首都における欧化政策の象徴「鹿鳴館」と同様、開拓地における西洋文化導入の実践場というべきものでした。あるいは彼らの行動の基盤には、若き日の留学先で目にした欧州貴族の生活とそれを支えた荘園経営への強い憧れがあったのかもしれない。

華々しく展開された華族農場ですが、荒れた大地の開墾は容易ではなく、多くの農場は、採算を度外視した農場主の私財の投入によりかろうじて維持されていました。その理由は、新国家建設への情熱もさることながら、何よりこの土地への深い愛着によるものでした。何人かの農場主は自ら望んでこの地に葬られ、それ以外にも多くの農場主が、死後その名を冠した神社に祀られています。彼らの

情熱に突き動かされ、那須野が原は徐々にその姿を変えていきます。

### 【華族農場がもたらした景観】

華族たちが試みた大規模農場の代表格は、大蔵大臣や総理大臣を歴任した松方正義公爵の「千本松農場」です。松方は水利に乏しい土地には欧米風の大農法が最適であると信じ、西洋農具を導入し広大な土地を開墾、その総面積は最盛期には1,600haに達しました。現在も800haの敷地を有する千本松牧場には、広大な放牧場と飼料畑、平地林が連なり、往時の姿をいまに伝えています。その一角に建つ別荘は、南に全面ガラス窓のサンルームを配した総2階の建物で、1階正面は大谷石で飾り、一見すると石造建築を思わせる重厚さを漂わせています。

人の住めない原野に農場を開いた華族たちは、人を呼び込む新しい「まち」も作り上げていきます。彼らの権力は鉄道や国道を開拓地に引き込み、農場内は正確に区画整理されて、開拓に携わる移住者を迎え入れました。

開拓に欠かせない水の確保のため、「那須疏水」が開削されたのは明治18年のことです。那珂川から取り入れられた水は那須野が原を横断し、4本に分かれて大地を潤し、その流れの先には必ず華族農場がありました。そこから支線が毛細血管のように走り、開墾により開かれた田にいまも水を注ぎ続けています。

### 【「華族たちの夢」から「酪農王国」へ】

華族農場に始まる開拓事業は、明治から昭和へと時を経て、戦後の開拓団に引き継がれました。舞台はかつて開拓には不向きとされた丘陵地へと移り、旧軍用地、国有林などが拓かれ、那須野が原の未開地は塗りつぶされていきました。

明治期から導入されていた牧畜の主流は、羊から乳牛へと代わり、技術革新による生産性の向上でその規模は徐々に拡大、やがてこの地は生乳生産本州一を誇る大酪農地帯へと成長していきます。

那須野が原を横断する県道を走ると、扇状地であるがゆえの、平らな大地に連なる緑の牧場と平地林、その背後にそびえる那須連山の雄姿が織りなすパノラマを楽しむことができます。そこに荒野の面影はありません。それは明治から途切れることなく続く開拓の歴史が作り上げたもの。伝統的な日本の農村風景とは一線を画した雄大な景観です。

いま、この地を訪れる人々は、四季折々の美しさに触れ、自然の中に遊び、大地の恵みを味わうことができます。その傍らで、各所に点在する別荘は、凜とした静寂に包まれながらも、かつての農場主たちが抱いた欧州文化への強い憧れと、彼らが思い描いた近代国家建設の情熱とを静かに語りかけてきます。

訪れる人々を、柔らかな高原の風と、かつて明治貴族が繰り広げた濃密な浪漫ものがたりをもって迎え入れる場所、それが那須野が原です。



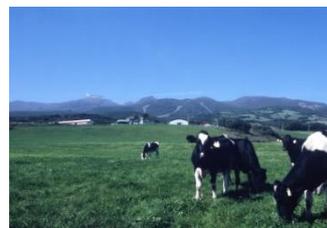
千本松農場跡に建つ別荘



碁盤の目のように区画されたまち



那須野が原に水を運ぶ那須疏水取水口



那須高原に広がる牧草地



青木駅から望む杉並木

## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
①	きゅうあおきけな すべってい 旧青木家那須別邸	国重文 (建造物)	那須野が原に展開された華族農場における別荘文化を象徴する建物です。 青木周蔵(子爵・外務大臣)はドイツ翁と呼ばれるほどのドイツ通で、自身の農場内に明治21年(1888)にドイツ様式の別荘を建設しました。 青木子爵はこの別荘を訪れるときには、黒磯駅から馬車で向かったと伝えられています。	那須塩原市
②	おおやまべってい 大山別邸	県有形 (建造物)	大山巖(公爵・元帥)が自身の農場内に建てた別荘で、当初は和風別荘が建てられ、その後、農場内で焼いたレンガを利用した素朴で重厚な造りの洋館が増築されました。	那須塩原市
③	まつかたべってい 松方別邸	未指定	松方正義(公爵・内閣総理大臣)が自身の農場内に、明治36年(1903)に建てた別荘です。現在も広大な敷地を擁する千本松牧場内にあり、当時の姿を色濃く残しています。	那須塩原市
④	やまがたありともきねんかん 山縣有朋記念館	県有形 (建造物)	明治42年(1909)、山縣有朋(公爵・内閣総理大臣)晩年の別荘として知られる小田原古稀庵に建てられた洋館です。設計者は、建築史学者の伊東忠太。大正12年(1923)の関東大震災で崩壊したため、翌年山縣農場内に移築されました。	矢板市
⑤	きゅうしおばらごようていしんござしよ 旧塩原御用邸新御座所	県有形 (建造物)	三島通庸(子爵・警視総監)が塩原温泉郷に建築した別荘が、明治36年(1903)に皇室に献上されたものが前身となっています。昭和56年(1981)に新御座所の部分のみ現在の場所に移築されました。	那須塩原市
⑥	のぎまれすけなすのきゅうたく 乃木希典那須野旧宅	県史跡	乃木希典(伯爵・陸軍大将)が明治25年(1892)に自ら設計した、農家風の質素な別荘です。乃木將軍は生涯4度休職しましたが、多くの時間をこの別荘で過ごしました。敷地内には乃木將軍を祀る乃木神社があります。	那須塩原市
⑦	やいたたけしきゅうたく 矢板武旧宅	市史跡	開拓と那須疏水開削に尽力した矢板武の旧宅です。現在は記念館として整備され、那須野が原開拓等に関する資料を展示・保管しています。	矢板市
⑧	やまだのうじょうじむしよあと 山田農場事務所跡 やまだしりょうかん (山田資料館)	未指定	山田顕義(伯爵・司法大臣)の農場事務所跡です。山田農場及び山田家ゆかりの資料が展示されています。	那須町
⑨	みしまのうじょうじむしよあと 三島農場事務所跡 なすの はらほくぶつかん (那須野が原博物館)	市史跡	三島通庸(子爵・警視総監)の農場事務所跡地です。現在は「那須野が原博物館」が建ち、常設の展示室では様々な資料と模型により、那須野が原の開拓と華族農場の展開についての知識を得ることができます。	那須塩原市

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
⑩	なすの ほらはくぶつかん 那須野が原博物館 しゅうぞうしりょう 収蔵資料	市有形、他	日本近代洋画の祖、高橋由一作《鑿道八景》や、那須野が原開拓に纏わる『那須開墾社関係文書』、『那須疏水関係文書』等が保管されています。	那須塩原市
⑪	やまがたのうじょう 山縣農場	未指定	明治19年(1886)に山縣有朋(公爵・内閣総理大臣)が開墾した農場跡です。現在も「第一農場」「第二農場」という名称が行政区として存続しています。	矢板市
⑫	さいごうじんじゃ 西郷神社	未指定	西郷隆盛の弟、西郷従道(侯爵・元帥)を祀る非常に珍しい石製の神社です。西郷侯爵は、明治34年(1901)に従兄弟の大山巖公爵と共同経営していた加治屋開墾場を分割し、西郷農場を営営しました。西郷侯爵没後、農場地内に本神社が建立されました。	大田原市
⑬	おおやまさんどう 大山参道	市記念物	大山巖公爵は大正5年(1916)に亡くなりましたが、本人の遺志により、遺体は那須野が原の農場内に葬られました。参道は、大正6年(1917)に、宮内省技師の設計により整備されました。	那須塩原市
⑭	からすがもり おか 烏ヶ森の丘	市史跡	明治18年(1885)那須疏水開削の起工式が挙行された場所で、丘の上からは三島通庸が農場内を区画整理した「碁盤の目」と呼ばれる街並みを見渡すことができます。	那須塩原市
⑮	ひらたとうすけ はか 平田東助の墓	未指定	品川弥二郎から譲渡された傘松農場を営営し、信用組合(産業組合、現在の農協など)の礎を築いた平田東助(伯爵・内大臣)の墓碑です。	大田原市
⑯	こてやさんりょくちこうえん 御亭山緑地公園	未指定	那須野が原東部に位置する標高512.9mの山で、山頂は公園として整備されており、那須野が原を一望できる景勝地となっています。	大田原市
⑰	なすの ほらこうえん 那須野が原公園 けんぼくだいきぼこうえん (県北大規模公園)	未指定	当時の原生林が残る旧千本松農場、旧三島農場にまたがる位置に整備された県営の大規模公園です。総面積は約57haで、当時の面影を残す自然林と丘陵を活用し、那須野が原や那須連山の眺望を楽しむことができます。	那須塩原市
⑱	さびがわ 蛇尾川	未指定	大佐飛山・日留賀岳方面を源流とする全長41.1kmの河川です。那須野が原扇状地の扇中部で伏流し約12km下流で地表に現れるため、雨期を除き延々と水のない河床が続き、所々車で横断できる場所もあります。	那須塩原市内 (伏流部)
⑲	なすそすいきゅうしゅすいしせつ 那須疏水旧取水施設	国重文 (建造物)	那須野が原の灌漑を目的とし、明治18年(1885)に国営事業として開削された那須疏水の取水施設の遺構であり、那須野が原開拓事業の象徴的施設です。	那須塩原市

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
⑳	なすきせん かんしょうだい 那須基線 (観象台)	北端点 市指定  南端点 未指定	明治11年(1878)に設けられた測量基準線の北端点と南端点です。2点間の距離は約10.63km。当時この区間に障害物が一切なく、2点を結んだ「たて道」と呼ばれる、本州一長い直線道路が南北に走ります。	那須塩原市 大田原市
㉑	きゅうくろだはらえきしゃかわら 旧黒田原駅舎 瓦	未指定	明治19年(1886)に宇都宮～白河間の鉄道が開通しましたが、当初の計画を変更して、開拓地を縦断するルートが取られました。山田農場の一角に、旧黒田原駅は明治24年(1891)開業しました。駅舎は老朽化により取り壊され、その名残の瓦が、現在那須歴史探訪館に展示されています。	那須町
㉒	しゃおん ひ 謝恩碑	未指定	明治24年(1891)に山田農場を開いた、山田顕義(伯爵・司法大臣)及び山田家への謝意を記した碑です。昭和30年(1955)建立されました。	那須町
㉓	たくこん ひ 「拓魂」碑	未指定	「戦後開拓」としての金丸原開拓の歴史と開拓初代の氏名を記す記念碑で、昭和51年(1976)に金丸原開拓農業協同組合により建立されました。碑の立つ敷地には旧金丸原開拓農業協同組合事務所があり、金丸原開拓の拠点でした。	大田原市
㉔	かいたく ひ 「開拓」碑	未指定	那須野が原北部の未開地には、戦後、旧軍人や満州からの引揚者が入植し痩せた大地を開墾しました。雄大な那須岳を望む千振開拓地に建つ記念碑には、厳しい開拓の様子が刻まれています。	那須町
㉕	おおたわらしれきしみんぞくしりょうかん 大田原市歴史民俗資料館 しゅうぞうしりょう 収蔵資料	未指定	大正14年(1925)に作図された『傘松農場土地台帳図』や『傘松農場事務所』関係の図面などが保管されています。	大田原市
㉖	おおたわらしおやおほうぼくじょう 大田原市大野放牧場	未指定	大田原市宮牧場で、牧区面積は約27haあります。明治期には御料地でしたが、後に陸軍演習場用地となり、戦後は「金丸原開拓」として開拓が進められました。	大田原市
㉗	なすまきしょうどうりようもほんぼくじょう 那須町共同利用模範牧場	未指定	那須連山の東南斜面、酪農乳用牛の効率的な育成を目的として、戦後開拓により作られた、敷地330haを有する放牧場で、現在の那須の風景を象徴しています。	那須町
㉘	せんぼんまつぼくじょう 千本松牧場	未指定	明治26年(1893)に松方正義が開設した農場で、最盛期は約1587haの広さを誇っていました。現在は観光農場として観光客を迎え入れますが、800haに及ぶ敷地は、当時の面影を色濃く残します。	那須塩原市
㉙	みなみがおかぼくじょう 南ヶ丘牧場	未指定	昭和24年(1949)、満州からの引揚者が入植した地域で、満州で培った畜産の知識と経験を生かし、入植当時から酪農を生産基盤とすることを見据えていました。	那須町

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
⑩	なす 那須ワイン	未指定	渡邊葡萄園は明治17年(1884)に創業された、ブドウ作りから一貫して行う国内でも最も古いワイナリーの一つです。日本固有種のマスカットベリーAを用いて、創業以来変わらぬ製法で生産されています。生前の乃木将軍が愛飲したといい、今も乃木神社に奉納されています。	那須塩原市
⑪	やいた 矢板のリンゴ	未指定	矢板市は、標高の低い土地でリンゴが生産できる南限といわれ、現在は18のリンゴ園が盛んに生産しています。大正3年(1914)、山縣有朋が青森県から技師を呼び苗木を植栽したのが始まりとされます。	矢板市

(様式3-2)

構成文化財の写真一覧

①旧青木家那須別邸



②大山別邸



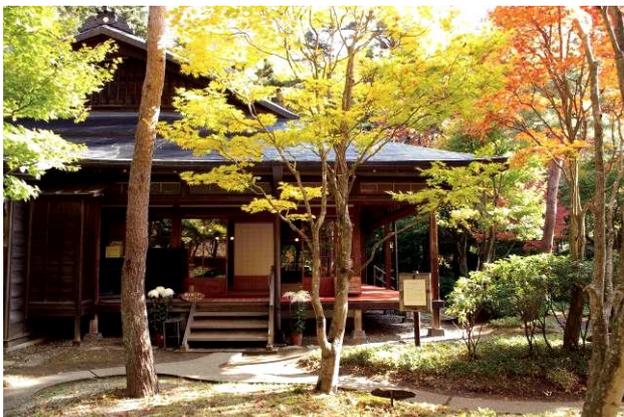
③松方別邸



④山縣有朋記念館



⑤旧塩原御用邸新御座所



⑥乃木希典那須野旧宅



⑦矢板武旧宅



⑧山田農場事務所跡（山田資料館）



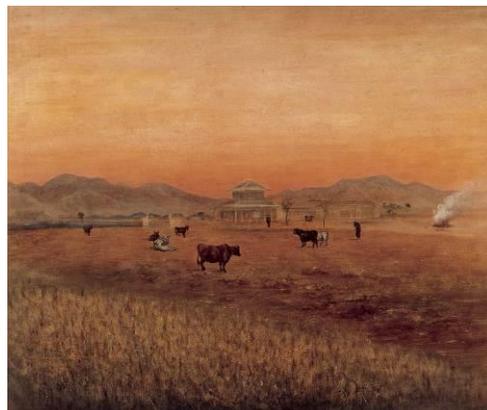
⑨三島農場事務所跡（那須野が原博物館）



⑩那須野が原博物館収蔵資料

（高橋由一作《鑿道八景》より

《第八景 三島牧場》）



⑪山縣農場



⑫西郷神社



⑬大山参道



⑭烏ヶ森の丘



⑮平田東助の墓



⑯御亭山（こてやさん）緑地公園



⑰那須野が原公園  
(県北大規模公園)



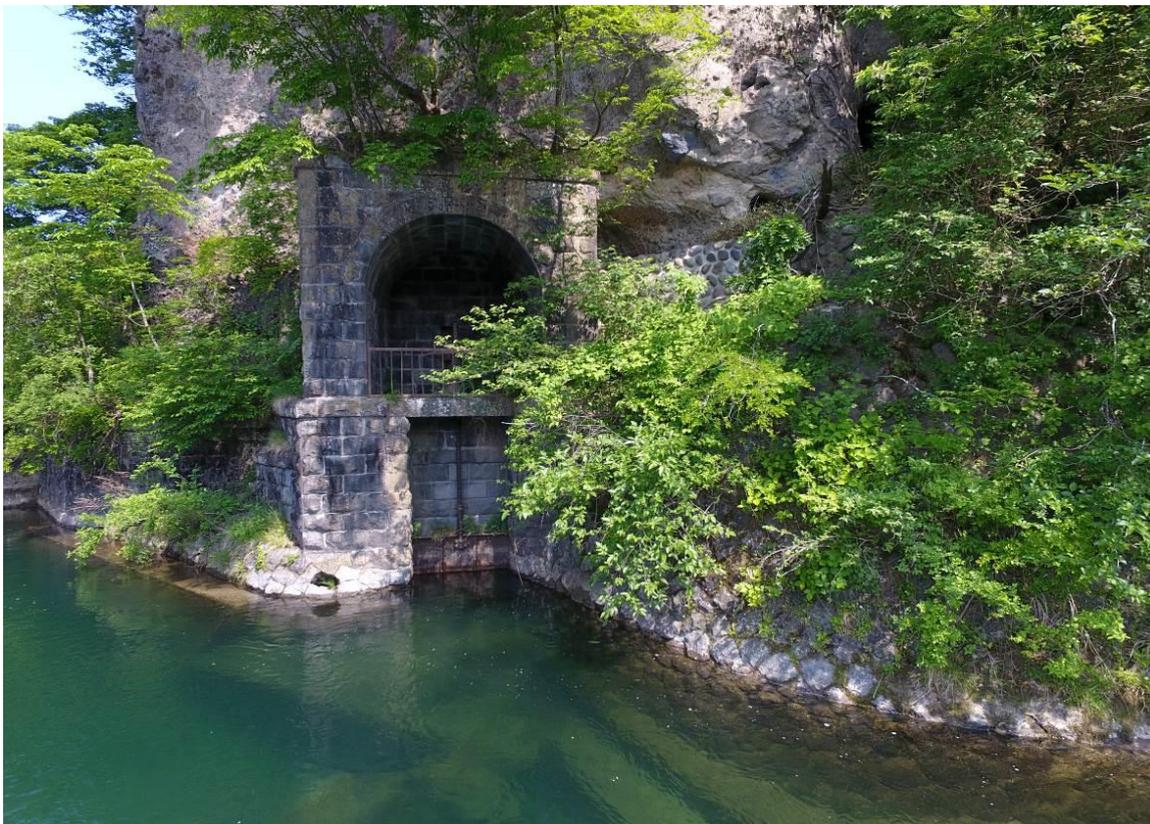
⑱蛇尾川



(蛇尾川の川底を横断する自動車)



⑱那須疏水旧取水施設



⑳那須基線（観象台）

北端点



南端点



㉑旧黒田原駅舎瓦



㉒謝恩碑



㉓「拓魂」碑



㉔「開拓」碑



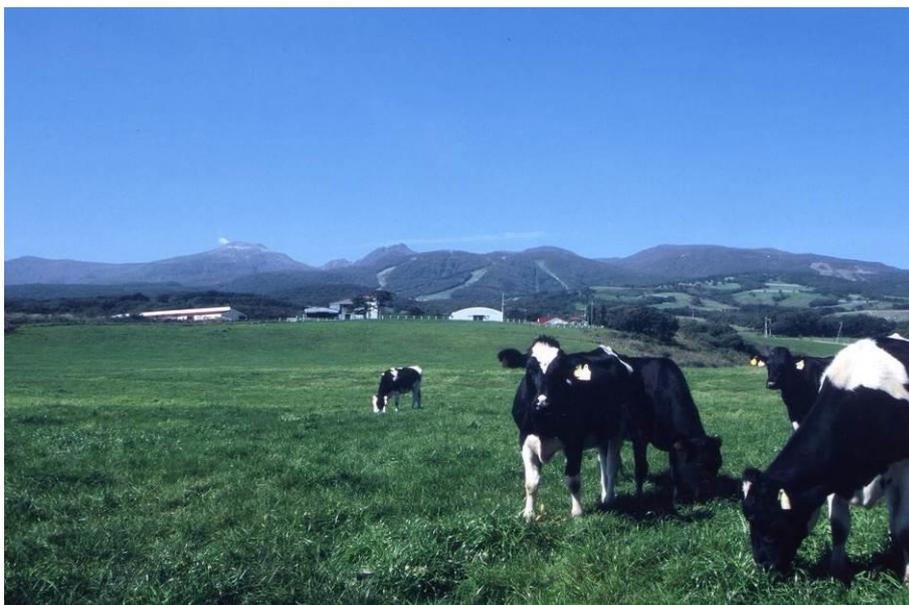
②⑤大田原市歴史民俗資料館収蔵資料



②⑥大田原市大野放牧場



②⑦那須町共同利用模範牧場



⑳千本松牧場



②南ヶ丘牧場



③那須ワイン



③1 矢板のリンゴ

